日本文化研究（マンガ・アニメーション）II

科目ナンバリング　ARL-210
選択　　2単位

萩原　由加里

1. 授業の概要（ねらい）

普段、何げなく見ている作品であっても、自分では気づかない作り手の工夫が数多くあります。また、過去のさまざまなジャンルの作品を参考にしていたり、同時代の日本社会の在り方をも反映しています。日本を代表する作品をセレクトした上で、日本のマンガ・アニメーションの独創性について考えていきます。

2. 授業の到達目標

1、作品から現代の日本文化の特徴を読み解く能力を身につける
2、日本と海外における作品の違いを把握することで、日本文化の独自性とは何かを考える能力を身につける

3. 成績評価の方法および基準

期末レポート60%、平常点（毎回の小レポート）40%

4. 教科書・参考文献

教科書
教科書：なし
参考文献
山田奨治編著　『マンガ・アニメで論文・レポートを書く　「好き」を学問にする方法』（2017）　ミネルヴァ書房

5. 準備学修の内容

毎回の授業で、次回に取り上げる作者もしくは作品を紹介するので、当時の社会的・政治的な出来事を図書館やネットを使って調べ、時代背景を把握したうえで授業に臨むこと。

6. その他履修上の注意事項

オンライン授業のため、映像の著作権等の関係から、授業内容が一部変更になる場合もあります。
リンク先の映像を、各自で視聴してもらうこともあります。

7. 授業内容

【第1回】　日本文化としてのマンガ・アニメーションとは
【第2回】　人形アニメーションの世界
【第3回】　多摩とアニメーション1　―近藤喜文『耳をすませば』
【第4回】　海外の人形アニメーション　―特撮との関連性

【第5回】　新房昭之の世界
【第6回】　幾原邦彦の世界
【第7回】　新海誠1　―『ほしのこえ』によるデビュー
【第8回】　新海誠2　―『君の名は』の大ヒットへ
【第9回】　多摩とアニメーション2　―高畑勲『平成狸合戦ぽんぽこ』
【第10回】　海外との比較2　―国家が支援するカナダのアニメーション
【第11回】　細田守『時をかける少女』
【第12回】　片淵須直『この世界の片隅に』
【第13回】　加藤久仁夫『つみきのいえ』
【第14回】　海外との比較3　―ロシアのアニメーション
【第15回】　マンガ・アニメーションの未来を考える